



劇作家・演出家であり、KAAT神奈川芸術劇場で芸術監督を務める長塚圭史さん。この4月、芸術監督として2期目に入った。記者会見では「1期目でまいた種を丁寧に育てたい」と語った長塚さん。劇場という場の可能性を信じ、さまざまなプロジェクトに挑戦する長塚さんに想いを伺った。

舞台は人を豊かにする

今でこそ演出をしています。最初は俳優志望でした。父(長塚京三さん)も俳優でしたし、やっぱり演技が面白そうに見えたんですよね。格好つけてみたい、変なことをやってみてみたい、あの作品の登場人物になってみたい、中学生くらいですから、きっかけはそんな軽い気持ちからだったと思います。高校に入って実際に演じてみたらすごく楽しかった。ある時、機会があって脚本を書いて演出をしてみたら、俳優として舞台に立っている以外の時間もずっと濃厚に芝居に関わってられる、ということに気が付いたんです。

演出を手がけるうち、舞台というものの魅力を自身に問い直すようになりました。演劇の魅力は、舞台を観ることはもちろん、それを作ることの喜びも含めて、想像力を豊かにするところにあるんじゃないかと思うんです。スマートフォンの電源を切って2時間から3時間、一つの世界に没入する。しかもその体験が何百人の間で共有される。こういう経験は劇場以外ではなかなかできないですよ。日常生活の荒波から逃げ込んで、ふっと自分のペースを取り戻す場所にもなると思うんです。舞台が多くの人にとって必要な場所になったら豊かな社会になるんじゃないか。そう信じています。

劇場をひらく

2021年からKAAT神奈川芸術劇場の芸術監督になりました。まず、ひらかれた劇場にしようと、1階エントランスのアトリウムにテーブルと椅子を選んで購入して並べたのが最初の仕事でした。チケットを持っていない人でも気軽に来てもらって、友達とおしゃべりしたり、お弁当を食べたりも出来る場所になればいい。公立の劇場ですから、地域の皆さんに親んでもらうことはとても大切だと思っています。

「カイハツ」というプロジェクトも立ち上げました。公募で選ばれたクリエイターが1週間ほど劇場に来てさまざまな舞台芸術のアイデアを試すんです。俳優やプロのスタッフも呼んで、自分のアイデアを実際に練ってみる。その間には対価もきちんと支払われるんです。劇場の創造活動の核を育てていく取組みと位置づけ、今期も継続してやっていきます。

5年間、芸術監督を務めてきて、再び上演したいと思える作品をたくさん作ることができたことは良かったと思います。再演できる作品は財産のようなもの。若い頃は再演するなら、新作を作ったほうが良いと思っていましたが、今はもう別人です(笑)。時間と力を注いで生み出した良い舞台を、より多くのお客さんに届け続けていきたいんです。

街と地続きにある劇場

この劇場に通うようになって、改めて素晴らしい場所に劇場があることに気付かされました。中華街はもちろん、元町、関内、馬車道、みなとみらい、伊勢佐木町、野毛と、それぞれに魅力的な個性をもつ街に劇場からすぐ行ける。そのことを知って、最寄りの日本大通り駅だけではなく、石川町駅や関内駅、元町・中華街駅や馬車道駅で降りて歩いて劇場に入ることもあります。降りる駅で街の印象が格段に変わる。これだけ面白い街に囲まれた劇場は珍しいんじゃないでしょうか。劇場に来られたら、舞台を観る前でも後でも、ぜひ街に出てみていただきたいですね。

挑戦し、動き続ける

劇場は社会を照らしていくものでもあるから、社会とともに動いていかなければいけないと思うんです。古きを守るのも劇場の仕事ですが、やっぱり新しいものを知り、作る必要があります。そのためには劇場が常に動いて



劇作家・演出家・俳優
長塚 圭史さん
Keishi Nagatsuka

1975年東京都生まれ。96年、早稲田大学在学中に演劇ユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」を旗揚げ。2011年、ソロプロジェクト「葛河思潮社」を始動。17年には、福田転球、大堀こういち、山内圭哉と新ユニット「新ロイヤル大衆舎」を結成。19年、KAAT神奈川芸術劇場芸術参加を経て、21年、芸術監督に就任。現在2期目。
公式サイト <https://nagatsukekeishi.com/>

いないと。動きがなくなったら劇場は終わりです。

新しいことをやり続けるのは大変です。物価も上がっていますしね。でも、KAATのスタンプは「やってみよう」精神を燃やし続けようとする心を持っていて、なおかつ技術にも長けている。とても助けてもらっています。「あの劇場はいつも面白いことをやっているよね」とお客さんから信頼される劇場が目標です。

なぜ人は線を引くのか?

芸術監督になってからシーズン制というものを導入し、毎年テーマを掲げています。今年度は「なぜ人は線を引くのか?-Why do people draw the lines?」。線を引くのが悪いというわけではありません。線を引くから安全が保たれることもあるだろうし、頭が整理さ

れることもある。そもそも自分にとって一番大切な線は何だろうか?そういう問いを毎年一つ掲げていきたいんです。

今年度はそのテーマに密接に関わる舞台を3作上演します。その中の1本、『ジャングル』という難民キャンプを舞台にした作品を演出します。この作品は県民の皆さんに提供していただく、創作過程を知っていただいたりして一緒に作っていきたくて考えています。観ているお客さんも巻き込んで、舞台を観ているのか、入り込んでやっているのかわからないと思わせるような空間になればいいと思っています。

KAAT 神奈川芸術劇場
公式サイト
●KAAT×阿佐ヶ谷スパイダース
『ジャングル』
10月10日(土)~11月1日(日)



簡単登録で
おトクが
いっぱい!!

よみうりselect

by SHONAN YOMIURI

LINE

公式アカウントがスタート!
友だち募集中!!

合計 **300** 名様
総額 **80** 万円

豪華賞品が当たる!
プレゼントキャンペーン実施中!

賞品は**ホテル宿泊券**や**お食事券**、**レジャー施設のご招待券**など!

初回登録限定

東京ドーム巨人戦
エキサイトシート
ペアご招待

読響日本交響楽団
コンサート
inみなとみらいホール
ご招待券
ペア3組6名様

LINE登録はこちら

応募締切
7月31日(金)まで!

新江ノ島水族館
ご招待券
ペア68組136名

よみうりランド入園券
+乗り物1回券
ご招待券ペア
65組130名

横浜みなとみらい
万葉倶楽部 ご招待券
ペア10組20名